

「こども」に関する言い回しを紹介します。

課題1：あなたは、それぞれの「こども」について使いこなせていますか。

課題2：(a) から (k) の「漢字」にフリガナをつけてみてください。

「こども」の言い表し

誰しも「こども」の時期があります。大人になっても「こども」と言われることもあります。「こども」の言い表しでは、文脈の中で、「こども」の概念が操作されています。

児童福祉法の第四条では、「この法律で、児童とは、満十八歳に満たない者をいい」とあり、「乳児」「幼児」「少年」に区分されています。「18歳未満のこども」の総称として「児童」が定義されています。「少年」である中学生や高校生も「こども」なのです。教育・発達心理・医療の分野での「こども」の受け止めは、多様です。「乳児」「幼児」(a)「小児」「未満児」(三歳未満)(b)「病児」「発達障碍(害、がい)児」等が思い当たります。

家族関係では、世代間のつながりからの言い表しがあります。直系の家族間では(c)「曾孫」(d)「曾孫」(e)「玄孫」「孫」「長子」「末っ子」等。姻戚関係にある家族間では、「甥っ子」「姪っ子」等。このほかに、「親子」「母子」「父子」「養子」「我が子」等の言い回しも人口に膾炙しています。習俗的な言い回しでは、「赤子」「子供」「幼子」「女兒」「男児」(f)「稚児」(g)「嬰兒」(h)「童」等が散見されます。このほかにも、「鍵っ子」「球児」「多胎児」「餓鬼」(i)「愛児」「捨て子」「孤児」「野生児」「双生児」「未熟児」「憎まれっ子」(j)「寵児」「隠し子」(k)「嫡子」等も、マスコミ媒体で見ることがあります。

なお、表記の面では、「こども」「子」「子供」「子ども」等が、それぞれの立場や文脈の中で用いられています。日常生活において無意識に「こども」を使い回しているとすれば、素晴らしい言語能力です。課題1と課題2についてはいかがでしたか。

[課題2の正解]

ㄥㄥㄥㄥ (ㄨ)	ㄥㄥㄥㄥ (!)	
ㄥㄥㄥ (!)	ㄥㄥㄥ (ㄥ)	ㄥㄥㄥ (ㄨ)
ㄥㄥ (ㄨ)	ㄥㄥㄥㄥ (ㄨ)	ㄥㄥㄥ (ㄥ)
ㄥㄥㄥ (ㄥ)	ㄥㄥㄥㄥ (ㄥ)	ㄥㄥㄥㄥ (ㄥ)